PROJECT

2

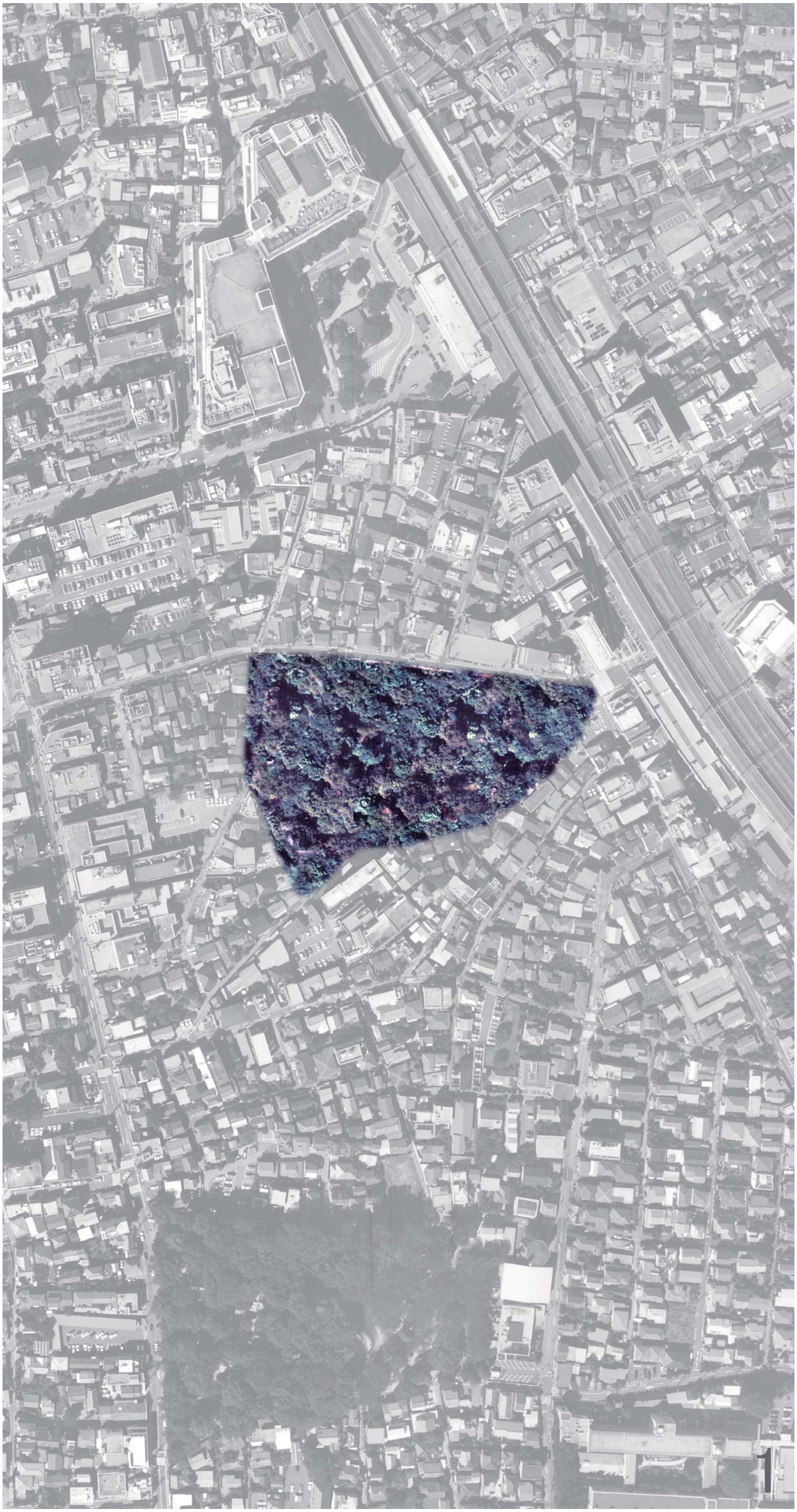
森の学校

繋ぐデザインによる
高砂小学校新築計画

近年の小学校には、地域社会のコミュニティの拠点となるために、周辺地域に開放されることが求められてきて久しい。しかし、こうした動きがある一方で池田小学校に代表されるような、不審者が学校内に侵入し、危険な目にあったケースも数多くなってきている。そのため、現実では子供たちを事件から守るために塀で敷地を区切り、日中は校門も閉ざしてしまうような、刑務所に似た小学校も珍しくない。
こうした事件はこれからもおきてしまう可能性が十分に考えられ、当プロジェクトを通して、これらの矛盾した社会的要求に対応できる新しい学校建築の提案を行う。

浦和に住む人たちと
豊かなライフスタイルを繋ぐ

高砂小学校は浦和駅のすぐ近く、少し駅に近づけば非常ににぎやかな浦和の街にでるとのできるようないわゆる街のほぼ真ん中に位置している。こうした街の中心に計画されるべきものは、ひょっとすると小学校ではなく、本来ならば商業施設や、集合住宅といった、高層で土地が有効に活用できるものであるかもしれない。しかし、ここではもう一つの街づくりとして、利益を追従する形ではないアプロ



街と環境を繋ぐ

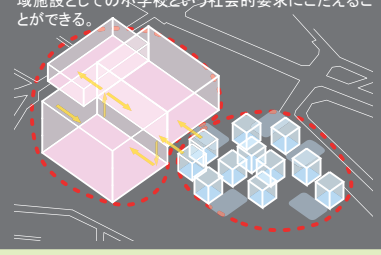
航空写真を見ているとハッキリと分かることであるが、浦和の街には緑化された場所は少ない。まとまって緑化されている場所といえば、調神社が挙げられるだろう。しかし、かつての中山道と調神社のように、街の中心にこそ自然環境は配置されるべきではないかと考え、この施設の表面を緑化することを計画する。さらにビオトープも併設することで小学校に通う子供たちが、街中にありながらも豊かな自然を感じながら学習し、今後ますます深刻となっていくであろう環境問題への興味や理解を深めていくことができる。

街と街を繋ぐ

高砂小学校の位置する場所は駅前に広がる飲食店街、低層部分に店舗をもつエイベックスタワー、現在再開発の工事が進む集合住宅、岸町の住宅街の境界線が集まる場所。こうした敷地にはいろいろな街の性格を取り入れた、多機能な施設となることで、街どうしをつなぐインターフェイスとなるような建物がふさわしいのだはないだろうか。

街と施設を繋ぐ

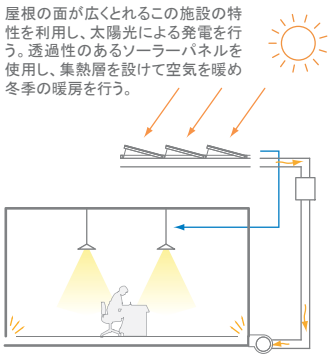
平日の授業中にも開放可能な屋内プールや体育館、休日に開放可能な特別教室というように段階的に地域へ開放していくことでゾーニングを明確にしながら地域施設としての小学校という社会的要求にこたえることができる。



施設と環境を繋ぐ

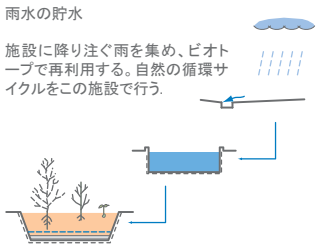
太陽エネルギーの活用

屋根の面が広くとれるこの施設の特性を利用し、太陽光による発電を行う。透過性のあるソーラーパネルを使用し、集熱層を設けて空気を暖め冬季の暖房を行う。



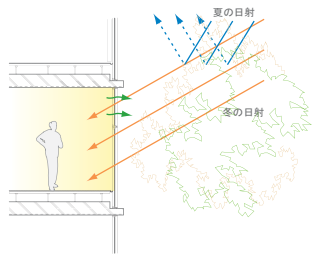
雨水の貯水

施設に降り注ぐ雨を集め、ビオトープで再利用する。自然の循環サイクルをこの施設で行う.



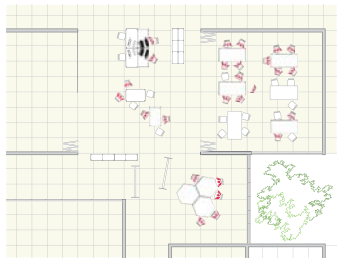
落葉樹による採光採暖

施設のなかにいくつも設けられている吹き抜け部分には落葉樹を植えていく。これによって夏は直射日光を防ぎ、冬には葉が落ちて日光をとりいれる。また、多くの吹き抜けによって自然の空気をより身近なものとなる。



学習と実習を繋ぐ

各教室にオープンスペースとして実習や調べ物学習を可能とするワークスペースを設けている。これによって弾力的な学習集団の編成、多様な学習形態を可能にさせる。



店舗

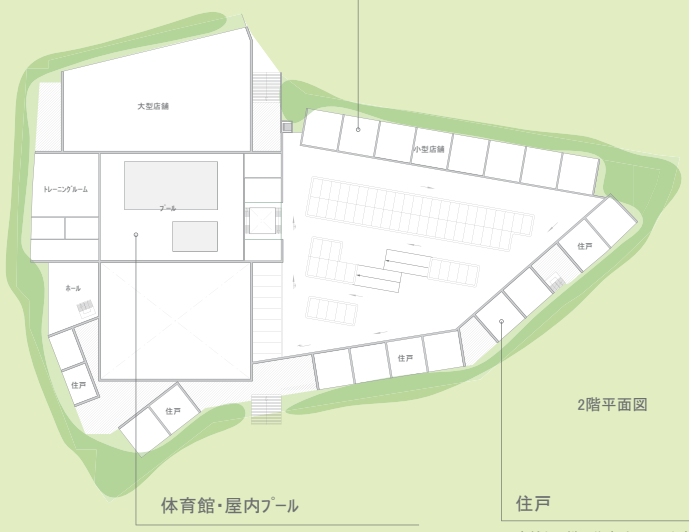
浦和駅周辺で広がる商店街に面する部分に店舗を配置する. 今までは小学校の建物によって分断されていた街と街を繋いでいく.

建物の緑化

外壁を緑化することで建物の断熱性を向上させ, 環境への負荷を軽減する.

けやきの木+避難階段

この小学校の象徴とされるケヤキの木を保存する. この小学校を卒業していった人たち, およびこれから入学, 卒業していく子供たちにとって共通の思い出となる. また, 地上から屋上までくりぬかれたこの空間は緊急時の避難経路としても利用される.



2階平面図

4階平面図

体育館・屋内プール

小学校が地域に開放できるスポーツ施設として, 体育館, プールを利用可能とする. 一般の利用者と小学生は別々のエントランスを利用することで小学生のセキュリティを確保する.

住戸

店舗と同様に住宅地に面した部分に住戸群を配置することで街を繋いでいく.

ビオトープ

身近な自然への理解, 環境との共生を学習するためビオトープを設ける. ビオトープの池や樹木はこの池雨水を利用する循環システムを取り入れる.

中庭+吹抜

平面的に広がる建物の形状上, 中心部での光量不足が短所となる. これを解決するために中庭, トップライトと吹抜を設ける. 明るい外気を取り込んだ空間は, リフレッシュ空間としても活用される.

防災センター

映像や疑似体験などによる、災害に関する知識が得られると同時に, 災害時に必要となる防災用資材を常時備蓄する. また, 災害時には応急避難場所となることを想定し, 生活に必要なエネルギーを太陽光を利用した発電によって確保することができる.

1階平面図 1:1000

特別教室エリア

従来の特別教室をエリアとして, 壁のない空間とする. 授業で使用する目的以外にも休み時間や放課後に, 子供たちが興味を持ったことが経験へ結びつけるきっかけとなっていく.

クラスルーム+オープンスペース

様々な授業の携帯に応えるため多目的なオープンスペースを学年で共有する. 各教室がオープンスペースに対して開放されるプランとすることで, 今までの学級主体の意識から, 学年主体へと拡張されていく.

3階平面図

ライブラリー

授業で利用できるオープンスペースに加え, ライブラリーとして多目的空間を配置する. いろいろな形, 大きさ, 環境のライブラリーを計画し, 子供たちが目的に合った空間を見つけ出して利用していく.

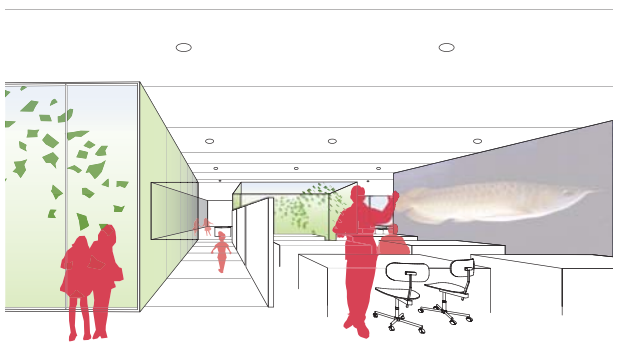
立面図 1:500

子供たちと安全を繋ぐ

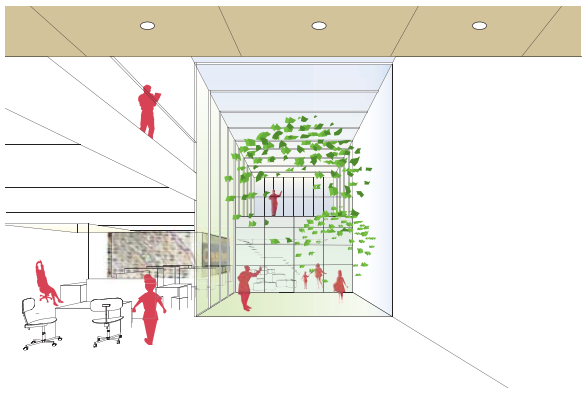
地域への開放, 施設の複合化を目指すうえで生まれるセキュリティの問題を断面的に解決. 一般の利用者と小学生のアプローチを完全に分離している.

断面図01 1:500

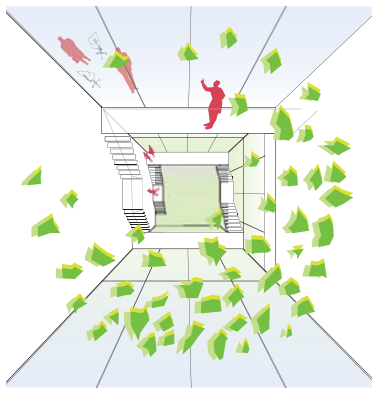
断面図02 1:500



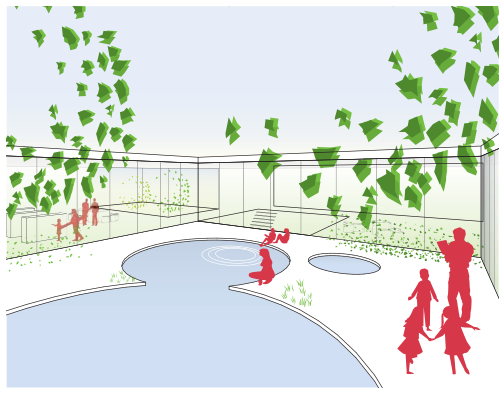
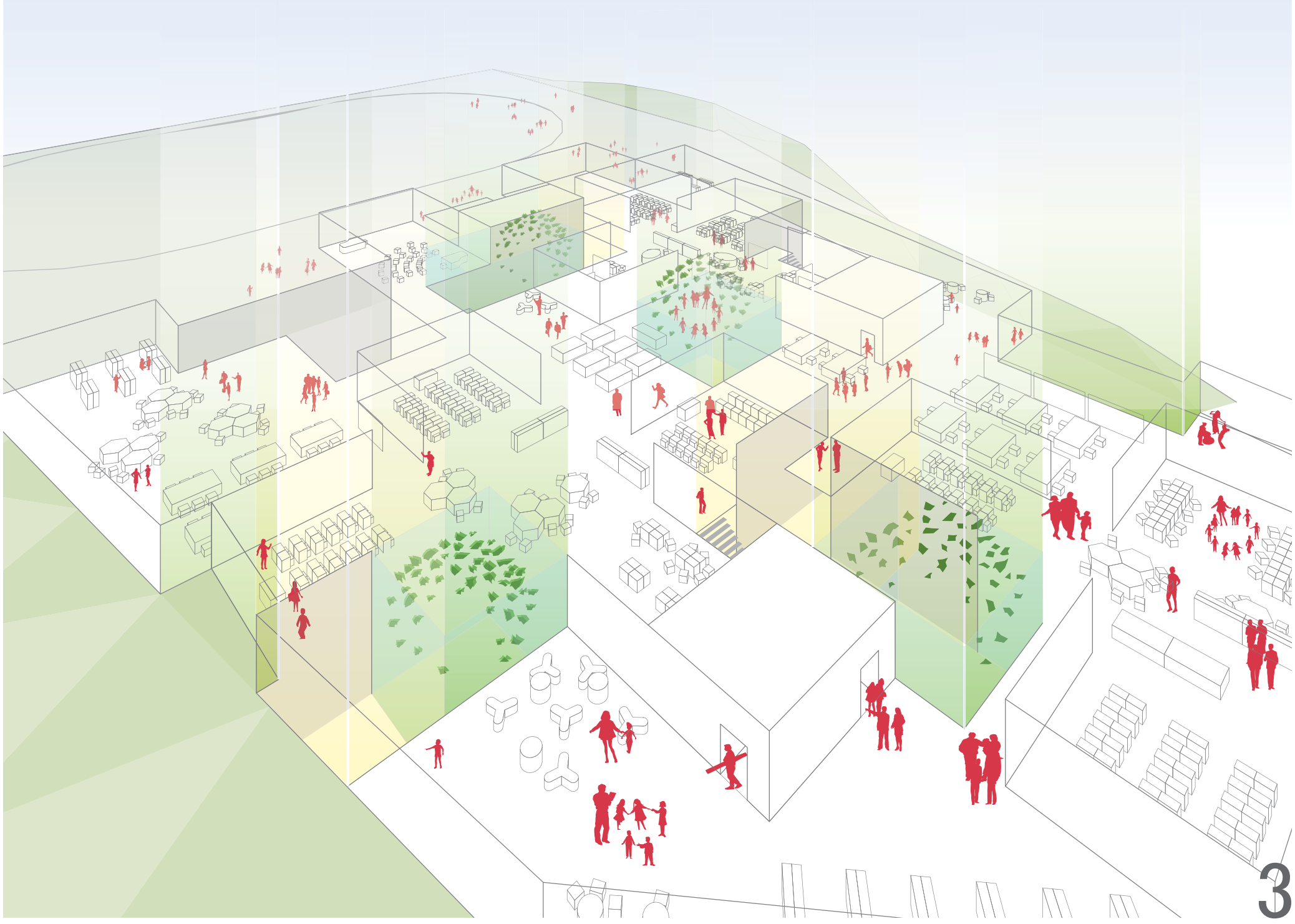
子供と体験を繋ぐ



空間と空間を繋ぐ



歴史と記憶を繋ぐ



子供と自然を繋ぐ